

# まとめ

- 全体
- 識別
- 回帰
- モデル推定
- パターンマイニング
- 推薦図書等

# 全体のまとめ

- 機械学習の位置づけ ( p.5, 図 1.3 )



観測データ

(134.1, 34.6, 12.9)  
(135.5, 30.1, 43.0)  
...



行動ログ

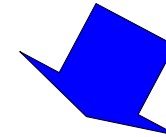
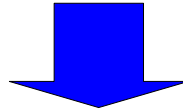
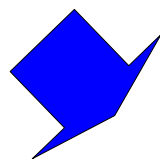
( 検索 = ハブ、購入 = ルータ )  
( クリック = メモリ、購入 = USB メモリ )  
...



分類ログ

( 記事 1, yes )  
( 記事 2, no )  
...

現実世界の  
複雑な現象



機械学習

異常値の発見

関数

推薦

識別器

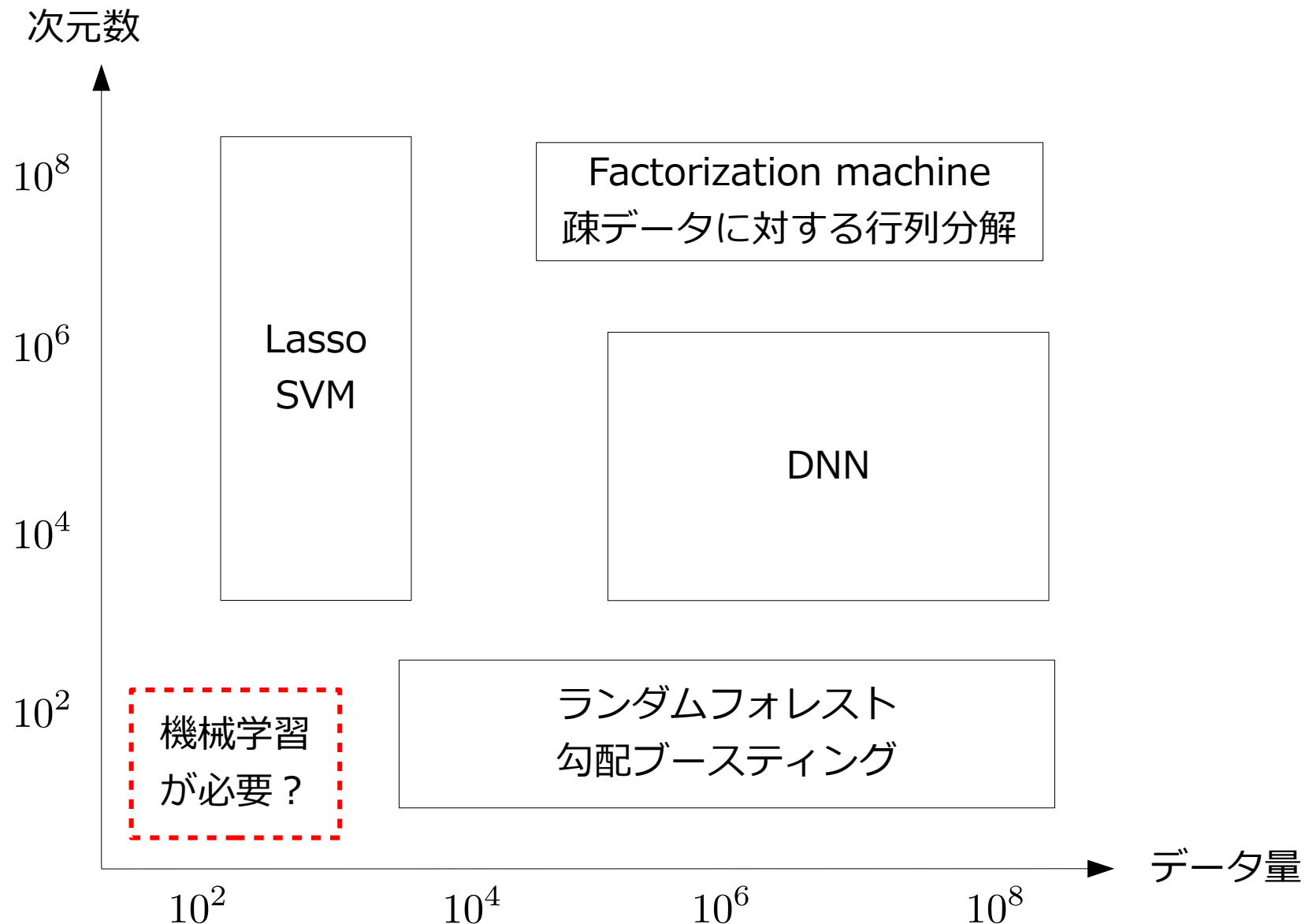
観測

モデルの作成

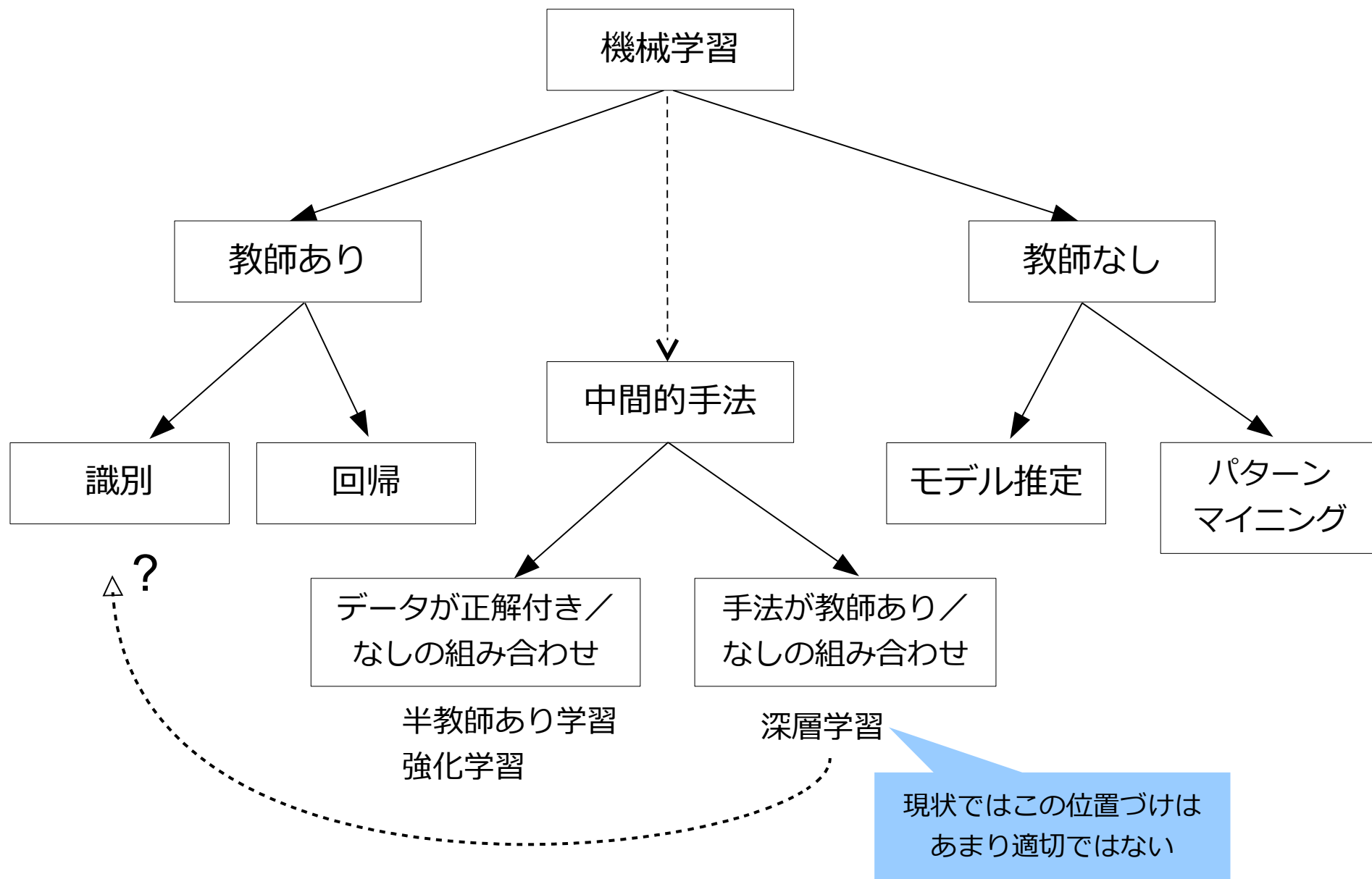
本講座の範囲

モデルの適用

# データ量・特徴次元数・学習手法の関係



# 1.3 機械学習の分類



# 識別のまとめ

- Step1: データの性質を知る
  - 1-1: 主成分分析で 2 次元に変換し、プロット
    - 累積寄与率の確認が必要
  - 1-2: ベースライン性能の見当をつける
    - 用いる手法： k-NN 法、単純ベイズ、ロジステック識別
    - スコアの評価：

生成モデル

識別モデル

      - すべて高い：良質のデータ。 Step2 へ
      - すべて低い：質の悪いデータ。特徴の見直しを
      - 極端に違う：データ数が少なすぎる可能性あり

# 識別のまとめ

- Step2: 識別器の作成
  - SVM
  - ランダムフォレスト
  - 勾配ブースティング
  - ハイパーパラメータの調整
    - Grid サーチ or ランダムサーチ
    - 連続値をとるハイパーパラメータは桁を変えて試す

# 識別のまとめ

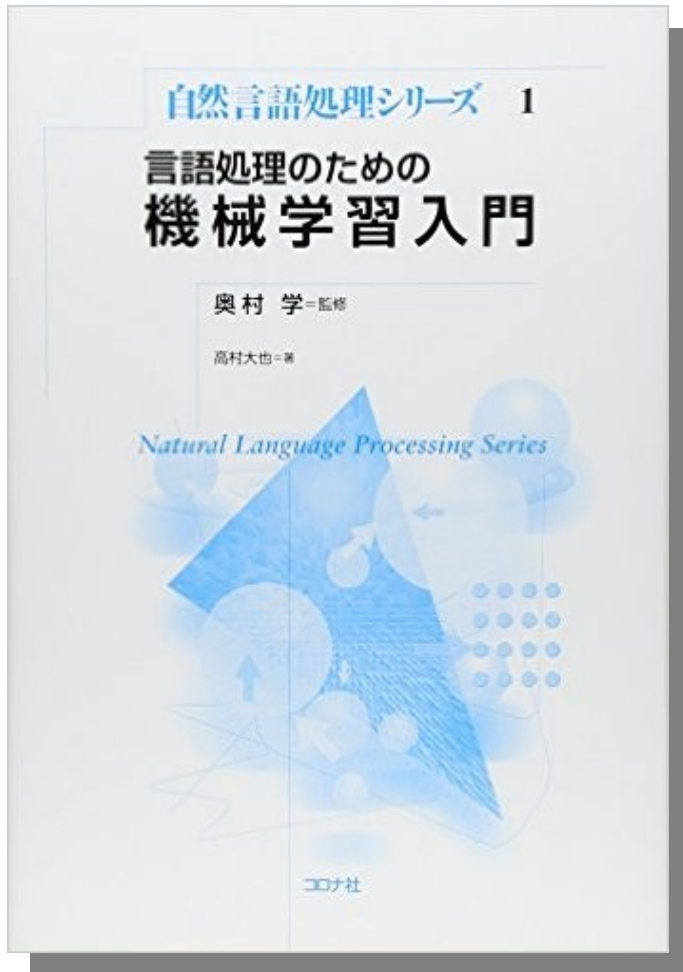
- Step3: 評価
  - データが少ない場合はひとつ抜きまたは 10-fold CV
  - データが多い場合は分割学習法
    - 学習データ・検証データ・評価データ
      - 学習データで学習、検証データでハイパーパラメータ調整を繰り返す
      - 最後に評価データで実稼働時の性能を予測

# 識別のまとめ

- Step4: 解釈
  - 必ず混同行列を見て結果を解釈する
    - どの性能に着目すべきか
      - 正解率／精度／再現率／ F 値
      - 特にクラス間でデータ数に大きな違いがあるときは要注意
  - 最初に目標を設定して、それがクリアできれば OK
    - スコア 100% はありえない
    - どの程度のスコアが達成できれば、どのような効果があるか、最初に見積もっておく



# 推薦図書



1. 必要な数学的知識
2. 文書および単語の数学的表現
3. クラスタリング
4. 分類
5. 系列ラベリング
6. 実験の仕方など

高村著 コロナ社 , 2010

# 推薦図書



平井著 森北出版，2012

第 1 章 はじめに

第 2 章 識別規則と学習法の概要

第 3 章 ベイズの識別規則

第 4 章 確率モデルと識別関数

第 5 章 k 最近傍法（kNN 法）

第 6 章 線形識別関数

第 7 章 パーセプトロン型学習規則

第 8 章 サポートベクトルマシン

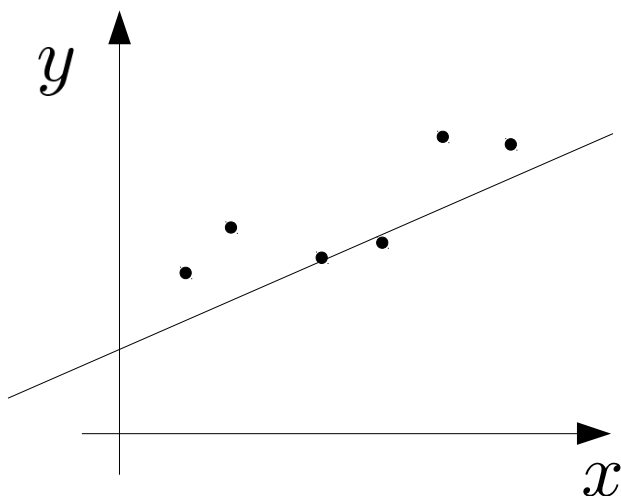
第 9 章 部分空間法

第 10 章 クラスタリング

第 11 章 識別器の組み合わせによる性能強化

# 回帰のまとめ

- Step1: データの性質を知る
  - 線形回帰の性能で検討をつける



$$\hat{c}(\boldsymbol{x}) = \sum_{i=0}^d w_i x_i$$

- 入力  $\boldsymbol{x}$  から出力  $y$  を求める回帰式を 1 次式に限定
- 解析的に係数  $w$  が求まる

# 回帰のまとめ

- Step2: 基底関数・正則化項を導入し、性能の向上を試みる

- 基底関数  $\phi(\mathbf{x}) = (\phi_1(\mathbf{x}), \dots, \phi_b(\mathbf{x}))$  を考える

$$\hat{c}(\mathbf{x}) = \sum_{j=0}^b w_j \phi_j(\mathbf{x})$$

例) 高次式による回帰  
サポートベクトル回帰

- 正則化項の導入

→ 複雑なパラメータ  $\mathbf{w}$  (過学習) の回避

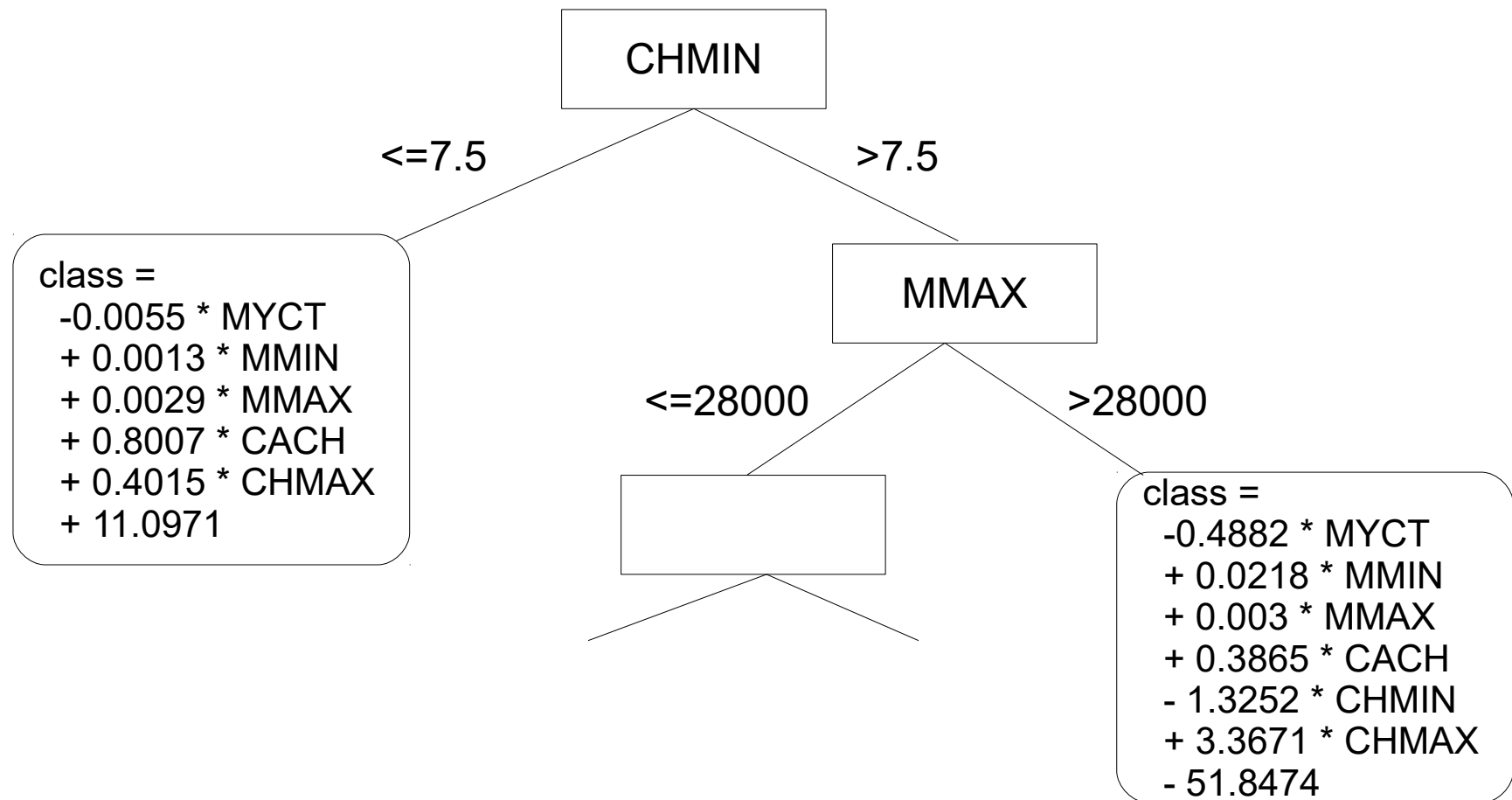
- L1 ノルム  $|\mathbf{w}|$  : 0 となるパラメータが多くなる
- L2 ノルム  $\|\mathbf{w}\|^2$  : パラメータを 0 に近づける

Lasso

Ridge

# 回帰のまとめ

- Step3: モデル木やアンサンブル学習を試す



# 回帰のまとめ

- Step4: 評価
  - 誤差の二乗和：手法間の評価に有効
  - 相関係数：出力と正解とがどの程度似ているか
  - 決定係数：相関係数の 2 乗

## Weka の結果表示例

```
=== Cross-validation ===  
=== Summary ===
```

Correlation coefficient	0.9012
Mean absolute error	41.0886
Root mean squared error	69.556
Relative absolute error	42.6943 %
Root relative squared error	43.2421 %
Total Number of Instances	209

## 決定係数の式

$$R^2 = 1 - \frac{\sum_{i=1}^N (y_i - \hat{c}(x_i))^2}{\sum_{i=1}^N (y_i - \tilde{y})^2}$$

$\tilde{y}$  :  $y$  の平均

# 推薦図書



高橋著 オーム社, 2005

プロローグ ノルンへようこそ！

第 1 章 基礎知識

第 2 章 回帰分析

第 3 章 重回帰分析

第 4 章 ロジスティック回帰分析

付録 Excel で計算してみよう！

# モデル推定のまとめ

- クラスタリング
  - 教師なしデータから、まとまりを発見する
  - 階層的手法
    - ボトムアップに小さなまとまりを結合
- 分割最適化手法
  - k-means : 分割数を予め与える
  - X-means, label propagation : 分割数を自動的に決定
- 確率密度推定
  - EM アルゴリズム



# モデル推定のまとめ

- 異常検出とは
  - 正常クラスのデータと、それ以外のデータとのクラスタリング
  - 外れ値検知、変化点検出、異常状態検出など
- 外れ値検知（静的異常検出）
  - データの分布から大きく離れている値を見つける
    - 近くにデータがないか、あるいは極端に少ないものを外れ値とみなす

# 推薦図書



- 第 1 章 ベイズ統計学
- 第 2 章 事前確率と事後確率
- 第 3 章 ベイズ決定則
- 第 4 章 パラメータ推定
- 第 5 章 教師付き学習と教師なし学習
- 第 6 章 EM アルゴリズム
- 第 7 章 マルコフモデル
- 第 8 章 隠れマルコフモデル
- 第 9 章 混合分布のパラメータ推定
- 第 10 章 クラスタリング
- 第 11 章 ノンパラメトリックベイズモデル
- 第 12 章 ディリクレ過程混合モデルによるクラスタリング
- 第 13 章 共クラスタリング

石井・上田著 オーム社, 2014

# パターンマイニングのまとめ

- バスケット分析

- 支持度を基準に頻出項目集合を抽出

$$\text{support}(items) = \frac{T_{items}}{T}$$

- 確信度またはリフト値の高い規則を抽出

$$\text{confidence}(A \rightarrow B) = \frac{\text{support}(A \cup B)}{\text{support}(A)} = \frac{T_{A \cup B}}{T_A}$$

$$\text{lift}(A \rightarrow B) = \frac{\text{confidence}(A \rightarrow B)}{\text{support}(B)}$$

# パターンマイニングのまとめ

- 協調フィルタリング

応用例) 通販サイトでの推薦

- メモリベース法

- k-NN 法と似たアイデアで、振る舞いが似ているトランザクションを探す

- モデルベース法

- 事前に似たような振る舞いをするユーザの集合をクラスタリングで得る
- 入力がどのクラスタに入るかを判別し、そのクラスタの購買履歴から推薦を行う

# 推薦文献

## 推薦システムのアルゴリズム

Algorithms of Recommender Systems

神島 敏弘 <<http://www.kamishima.net/>>

Release: 2016-09-26 21:53:16 +0900; 9645c3b

本稿の構成より

第 I 部では、推薦システムとは何か、またその設計指針や分類について述べる。

第 II 部では、データの入力、嗜好の予測、そして推薦の提示からなる推薦システムの実行過程について述べる。

第 III 部では、さまざまな嗜好の予測アルゴリズムのを紹介する。

第 IV 部では、推薦システムに関連する話題や、さまざまな状況での推薦を紹介する。

第 V 部は関連資料の紹介とまとめである。

神島著 2016

<http://www.kamishima.net/archive/recsysdoc.pdf>

全般的な推薦図書等

# 推薦図書



第 1 章 確率変数と確率分布

第 2 章 離散型確率分布の例

第 3 章 連続型確率分布の例

第 4 章 多次元確率分布の性質

第 5 章 多次元確率分布の例

第 6 章 任意の確率分布に従う標本の生成

第 7 章 独立な確率変数の和の確率分布

第 8 章 確率不等式

第 9 章 統計的推定

第 10 章 仮説検定

杉山著 講談社 , 2015

# 推薦図書



杉山著 講談社，2013

## 第 I 部 はじめに

第 1 章 機械学習とは

第 2 章 学習モデル

## 第 II 部 教師付き回帰

第 3 章 最小二乗学習

第 4 章 制約付き最小二乗学習

第 5 章 スパース学習

第 6 章 ロバスト学習

## 第 III 部 教師付き分類

第 7 章 最小二乗学習に基づく分類

第 8 章 サポートベクトル分類

第 9 章 アンサンブル分類

第 10 章 確率的分類

第 11 章 系列データの分類

## 第 IV 部 教師なし学習

第 12 章 異常検出

第 13 章 教師なし次元削減

第 14 章 クラスタリング

## 第 V 部 発展的課題

第 15 章 オンライン学習

第 16 章 半教師付き学習

第 17 章 教師付き次元削減

第 18 章 転移学習

第 19 章 マルチタスク学習

## 第 VI 部 おわりに

第 20 章 まとめと今後の展望



# 推薦図書



第 1 章 数学の準備

第 2 章 Python の準備

第 3 章 ニューラルネットワーク

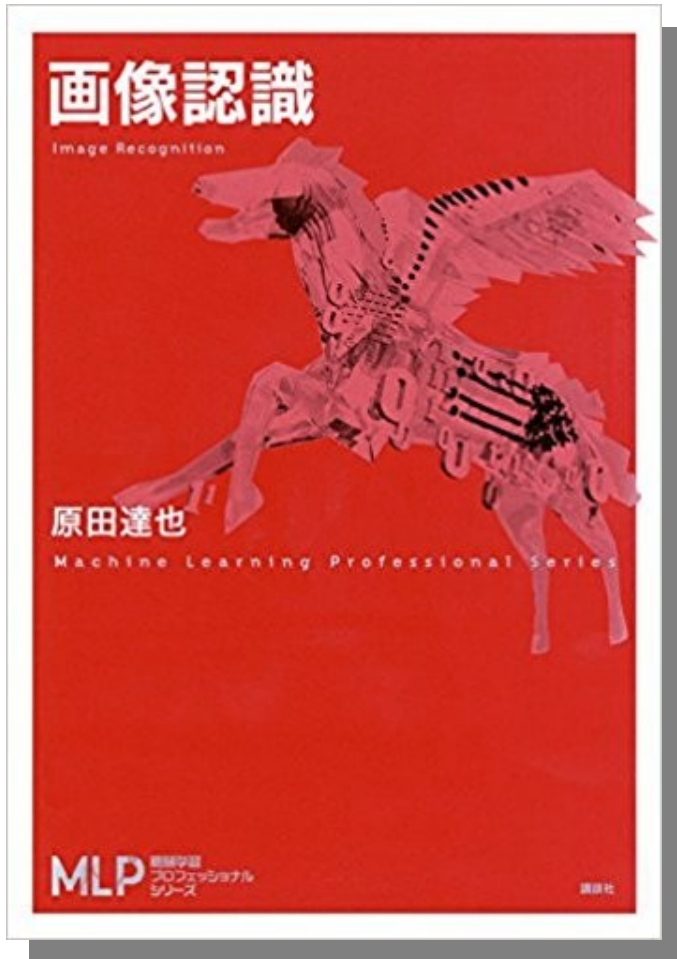
第 4 章 ディープニューラルネットワーク

第 5 章 リカレントニューラルネットワーク

第 6 章 リカレントニューラルネットワーク  
の応用

果籠著 マイナビ出版, 2017

# 推薦図書



原田著 講談社，2017

第 1 章 画像認識の概要

第 2 章 局所特徴

第 3 章 統計的特徴抽出

第 4 章 コーディングとプーリング

第 5 章 分類

第 6 章 畳み込みニューラルネットワーク

第 7 章 物体検出

第 8 章 インスタンス認識と画像検索

第 9 章 さらなる話題

# 推薦図書



黒橋著 放送大学教育振興会，2015

自然言語処理の概要と歴史

文字列・テキスト処理の基礎

系列の解析

コーパスに基づく自然言語処理

意味の解析

構文の解析

文脈の解析

情報抽出と知識獲得

情報検索

対話システム

機械翻訳

まとめ

# 推薦コース

- オンライン学習 (udemy)



- Python で機械学習 : scikit-learn で学ぶ識別入門

- <https://www.udemy.com/python-scikit-learn/>

- 講師 : 玉木 徹

- 合計 9 時間のビデオレクチャー